

単元名 おもいうかべながら よもう

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
 (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
 (3) 想像力を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとする。

標準的な展開例

01010206_001

【教材名】くじらぐも (下 P. 4～P. 16)

【準備等】挿絵を拡大したもの、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○扉の詩「ともだち」を声に出して読む。 ○目次を見て、今後の学習への見通しをもつ。 <p>2 学習の見通しをもつ。</p> <p>★役に分かれて音読を楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題名や挿絵から想像を広げ、お話に興味をもつ。 ○教師またはCD等による範読を聞く。 ○学習の見通しをもつ。 <p>3 教材文を読み、あらすじを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挿絵の順序を考える。 ○登場人物を考える。 ○子どもたち、くじらぐも、地の文に分かれて、音読をする。 <p>4～6 音読を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが、くじらぐもに出会う場面を音読する。 ○くじらぐもが子どもたちのまねをする場面を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが、くじらぐもに乗ろうとする場面を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ○くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちになって会話文を書く。 <p>7～8 音読を発表し合い、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな場面を選び、グループで役を決めて音読の練習をする。 ○音読を発表し合い、楽しかったところや互いのよかったところを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館などから、なかがりえこさんの本（ぐりとぐらシリーズ）を用意し、紹介してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・「おむすびころりん」「おおきなかぶ」等、これまでに音読を楽しんだ教材を思い出させて、音読を楽しもうと声を掛ける。 <p>【評】あらすじを捉える活動を通して、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大した挿絵をばらばらにしたものを、あらすじに沿って並び替えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・誰が話した言葉なのかを確認してから、音読するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・動作を交えながら音読させてもよい。 ・子どもたちとくじらぐもの位置関係から、間や声の大きさ、速さなどの変化を考えさせるとよい。 ・「」のところは、様子が分かるように読ませる。 <p>【評】音読の活動を通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30センチ、50センチの高さが実際に分かるようにするとよい。 ・同じ言葉でも回を重ねるごとに大きくするなどの工夫を伝える。 <p>【評】場面の様子を読む活動を通して、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話文は「」を使って書くことを伝え、「はます目の右下4分の1の場所、」はます目の左上4分の1の場所に書かせる。 <p>【評】会話文を書く活動を通して、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使う「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書（P. 15）の「たいせつ」を確認し、「おもいうかべながら」読むことを確認する。 <p>【評】物語の音読を楽しみ、友達と交流することを通して、想像を広げることのよさに気付こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】